

保育所における保護者支援の現状と課題①

—保護者へのアンケートより—

北澤 明子
志濃原 亜美

Current status and issues of support to parents at nursery schools①

—From a questionnaire survey for parents—

Akiko Kitazawa
Ami Shinohara

キーワード：保育所、保護者支援、送迎時のコミュニケーション

Key Words : nursery school、support for parents、communication during transfer of children

要約：本研究では、子育て支援の視点から、保育士等と保護者の日々のコミュニケーションの現状と課題について明らかにすることを目的に送迎時のコミュニケーションに焦点を当て、保護者へのアンケート調査を実施した。その結果、送迎時の保育士等とのコミュニケーションとして想定される「挨拶」「体調確認」「最近の子どもの様子などに関する会話」「その他確認事項」の4項目のうち、「挨拶」や「体調確認」については「よくする」「かなりする」と感じているが、「最近の子どもの様子などに関する会話」については「少しする」と感じている保護者が多く、自由記述からも子どもの様子をもっと知りたいと感じている場合が多いことが示唆された。

Abstract : The aim of this study is to clarify current situation and issues on the daily communication between nursery school teachers and parents. As the result of questionnaire survey, it was indicated that the answer to “greeting” and “condition check” was “Frequently” or “Very Frequently”, but the one to “small talk” was “Not Fluently”. The analysis of free descriptions also showed that many parents were so interested in how their children spent in nursery school.

※本調査は秋草学園短期大学奨励研究（平成 29 年度～平成 30 年度）の一環として実施した。

1. 問題の所在と背景

我が国では、合計特殊出生率が丙午の年を下回る「1.57」を記録した1990（平成2）年の「1.57ショック」^{注1)}から少子化対策が本格的に実施され、以降年々拡充されてきた。保育所、幼稚園、認定こども園でも、その支援の一つとして、子どもの保護者に対する子育ての支援を行うことが求められている。なかでも保育士は児童福祉法で「保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」（第18条の4）と定義され、2018（平成30）年に施行された現行の保育所保育指針でも、第4章「子育て支援」において、保育所を利用している子どもの保護者と地域の子育て家庭の保護者を対象とした「2つの保護者支援（子育て支援）」が保育所の役割として明記されている。

特に、保育士等が日常の保育を通して接する保育所に在園している子どもの保護者に対する支援については「日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること。」（保育所保育指針 第4章2）が大切であり、そのためには「保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受けとめること、保護者の疑問や要望には対話を通して誠実に対応すること、保育士等と保護者の間で子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うことなどが必要」¹⁾であることが「保育所保育指針解説」において示されている。しかし現実には、保育士の業務は多忙であるといわれており、保護者もまた忙しく、どのように「保護者の置かれている状況を把握する」のか、また保護者の疑問や要望に「対話を通して誠実に対応する」時間や「保育士等と保護者の間で子どもに関する情報の交換細やかに行う」時間の確保等が課題になっている。「保育所保育指針解説」では、そのための手段や機会として「連絡帳、保護者へのお便り、送迎時の対話、保育参観や保育への参加、親子遠足や運動会などの行事、入園前の見学、個人面談、家庭訪問、保護者会」などがあげられている。本研究では、これらの手段や機会のうち、連絡帳やお便りについては紙面でのやりとりになること、保育参観やその他の行事は年間を通して組み込まれているが、必ずしも保護者の状況の把握や対話の機会にはならない場合もあるため、保護者の状況を日常的に把握し、対話を行い、子どもに関する情報交換の時間となり得る機会として「日々の送迎の時間」に着目をした。

保育所における子どもの送迎時についての先行研究としては、保育所に対するアンケート調査と送迎保育ステーションへの聞き取り調査を実施し、送迎の場所や、人、時間等の傾向について報告をした松尾（2015）の研究²⁾や親子のふれあいを促すために使用されるハッピー7カードを送迎時に使用した結果の効果を報告した松井ら（2018）の研究³⁾、送迎時の物的環境の支援機能について検討した亀崎（2018）の研究⁴⁾などがあげられる。しかし、日々の送迎の中で、保育士等と保護者がどのようなことについてコミュニケーションをとっているのかという現状や、保護者自身がどのように感じているのかについて明らかにし

た先行研究はない。そのため本研究では、子育て支援の基礎となる日常の送迎時のコミュニケーションに焦点を当て、保護者へのアンケート調査を実施して分析する。今回は、その一部の調査報告を行う。

2. アンケート調査の目的

本研究では、前述の問題意識から、保育所等（認可保育所、認可外保育所、認定こども園）に子どもを預けている保護者へアンケートを実施し、保育士等と保護者の日々のコミュニケーションについて、子育て支援の立場からその現状と課題について明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

3-1 調査対象と調査期間

本アンケート調査の対象は、保育所等（認可保育所、認可外保育所、認定こども園）に子どもを預けている保護者である。「保育所等に子どもを預けている保護者」という特定の対象者の様々な保育所等での調査が有効であると考え、スノーボールサンプリング（雪だるま式標本法）を採用した。調査期間は、2017年11月～2018年3月に実施した。この期間で回収可能な90のサンプルをもとに分析を行った。

3-2 倫理的配慮

調査票に、調査の趣旨と共に研究以外の目的で調査結果を使用しないこと、回答者の情報が外部に漏れることがないこと明記した上で回答依頼し、調査票は郵送で配布、回収した。

3-3 調査項目・分析方法

調査対象者についての質問項目として、属性（都道府県、保育所に在籍している子どもの数・年齢、アンケート実施者について、在籍園の概要、年齢）の5項目、保護者の現状についての3項目を設定した。保護者の子育てへの支援について保育所保育指針の保護者支援の項目に沿う形で13項目を設定した。このうち、本稿では属性、保護者の現状、保育所での保育士等とのコミュニケーションについての3項目に対して集計、分析を行った。

表1 属性/都道府県 (人)

埼玉県	58
東京都	13
千葉県	7
群馬県	5
神奈川県	3
茨城県	3
岩手県	1
合計	90

4. 結果

4-1 調査対象の基本的属性

① 居住地

回答者の居住地は、関東圏を中心に7都道府県であった。
(n=90)。埼玉県64%、東京都15%、千葉県8%、群馬県6%、神奈川県3%、茨城県3%、岩手県1%であった(表1)。

② 回答者／年齢

回答者は、父親が 27 人 (30%)、母親が 61 人 (68%) であった。両親以外の祖父母の記入は、2 人 (2%) であった。回答者の年齢は、25 歳以下が 6 人、30 代が 51 人、40 代が 30 人、50 代が 2 人、60 代が 1 人であり、子育て世代である 30 代が 57%、40 代が 33% であり、あわせて 9 割近くとなった。

③ 子どもの状況

子どもについての質問項目として、保育所に通園している子どもの人数、年齢について質問をした。子どもの人数については、1 人が 60 人 (67%)、2 人が 27 人 (30%)、3 人が 3 人 (3%) であった。子どもの年齢は、0 歳児 5 人、1 歳児 14 人、2 歳児 27 人、3 歳児 18 人、4 歳児 34 人、5 歳児 25 人となった (複数回答)。

④ 園の概要

子どもが通園している園の概要については、公立の認可保育所が一番多く、次に社会福祉法人立の認可保育所、株式・財団法人等の認可保育所、認定こども園、認可外保育所・その他と続く結果となり、全体の 95% を認可保育所が占める形となった。

4-2 保護者の現状

保護者への支援を考えるうえでの項目として、日々の保育所等への送迎や保護者会等の行事について、主に誰が行ったり、参加したりしているのかという現状について挙げた。保育所等への子どもの朝の送りについては母親が 61% と半数以上を占めていた。次いで父が 21%、父・母両方が 8%、祖父母等親族が 3%、その他が 7% と母親以外の送迎の割合が 32% を占めていることがわかる。この背景にはフルタイムで働いている母親の増加があり、近年では、「イクメン」ということばも流行しているように、徐々に父親の参加や父親の意識の変化などで、父親が担当する場合や、両親の都合がつかない場合に祖父母等やファミリーサポートセンターなどに委託しているなどの現状があるだろう (表 2)。

子どもの迎えについては母親 83% を占めており、主に送迎している父親は 1% と朝の送りに比べ父親が占める割合が 20% 減り、母親の占める割合が 20% 以上増えることが明らかとなった。その他は父・母両方、祖父母等親族が迎えを行っている場合がいずれも 5%、母と祖父母等親族、その他の割合がいずれも 3% という結果となった (表 2)。

次に、保育者が日々の保育の意図や子どもの様子などを共有する場である懇談会への主な参加者は、母親が 86%、子どもの送迎同様母親が主に担当しており、父・母が両方 (時間がある方

表 2 子どもの送迎 (人)

主な担当	送り	迎え
父	19	1
母	55	75
父・母両方	7	4
祖父母等親族	3	4
その他	6	3
合計	90	90

表 3 懇談会等への参加 (人)

父	3
母	77
父・母両方	1
その他	9
合計	90

が参加する) の場合が 1%、父が主に参加するという場合が 3%、その他が 10%であった (表 3)。

保護者の現状について 3 つの質問項目から保育所と子どものことを共有する時間である送迎や保護者会については、母親が多くを担っているという現状がうかがえた。一方で、全ての役割が母親というわけではなく、父親もできる範囲で役割を担っているということもうかがえた。特に、フレックスタイム等仕事の形態によって融通がききやすい朝の送りに関しては、父親が担う割合が多いことがわかった。家族の形が従来の性別役割分業型家族から協業型家族へと変化し、上述したように父親の育児への参加が増えてきている昨今であるが、日々の送迎はもちろん、懇談会などの育児に関する重要な話などは、相変わらず母親に任せられているということも現実にはあるのだろう。また、両親だけでなく祖父母等の親族の協力を得る、多様になっている様々な育児サービスを利用するなど核家族が多くなっているなかで両親以外が送迎等の役割を担う場合もあるため、この場合に必要な支援についても考えていく必要があるだろう。

4-3 保育者との日々のコミュニケーションについて

① 送迎の際のコミュニケーション

送迎の際に保護者は保育者とどのようなコミュニケーションをとっているのかについて「挨拶」「体調確認」「最近の子どもの様子などに関する会話」「その他確認事項」の 4 項目に対し、その内容についての会話や確認を「よくする」「かなりする」「少しする」「しない」の 4 件法で記入を求めた。その結果が以下の表 4、表 5 である。

表 4 送りの際の保育者とのコミュニケーション (n=90) (人)

	よくする	かなりする	少しする	しない	未記入
挨拶	66	16	6	1	1
体調確認	44	13	24	8	1
最近の子どもの様子などに関する会話	20	6	42	21	1
その他確認事項	23	7	45	11	4

表 5 迎えの際の保育者とのコミュニケーション (n=90) (人)

	よくする	かなりする	少しする	しない	未記入
挨拶	67	14	6	1	2
体調確認	37	15	27	9	2
最近の子どもの様子などに関する会話	30	14	35	9	2
その他確認事項	25	9	42	10	4

【挨拶について】

挨拶についてはコミュニケーションの基本となるため、送り、迎えどちらの時間でも多くの保護者が「よくする」「かなりする」と感じていることがわかった。具体的には、送り時に保育者と挨拶を「よくする」と感じているのは66人(73%)、「かなりする」と感じているのは16人(18%)となった。迎え時には「よくする」と感じているのが67人(74%)、「かなりする」と感じているのは14人(16%)であり、送迎時共に9割以上の保護者が保育者と挨拶を「よくする」「かなりする」と感じていることがわかった。

一方で、後述する自由記述にもごく少数ではあるが「挨拶がない」、「挨拶されているように感じられていない」という記述もあるように、送迎時共に挨拶を「少しする」が6人(7%)、「しない」が1人(1%)となった。挨拶はコミュニケーションの基本であり、保育者が「挨拶をしている」つもりでもされていないと感じる保護者がいるため、コミュニケーションの基本として相手に伝わる「挨拶」の方法について確認することが必要だろう。

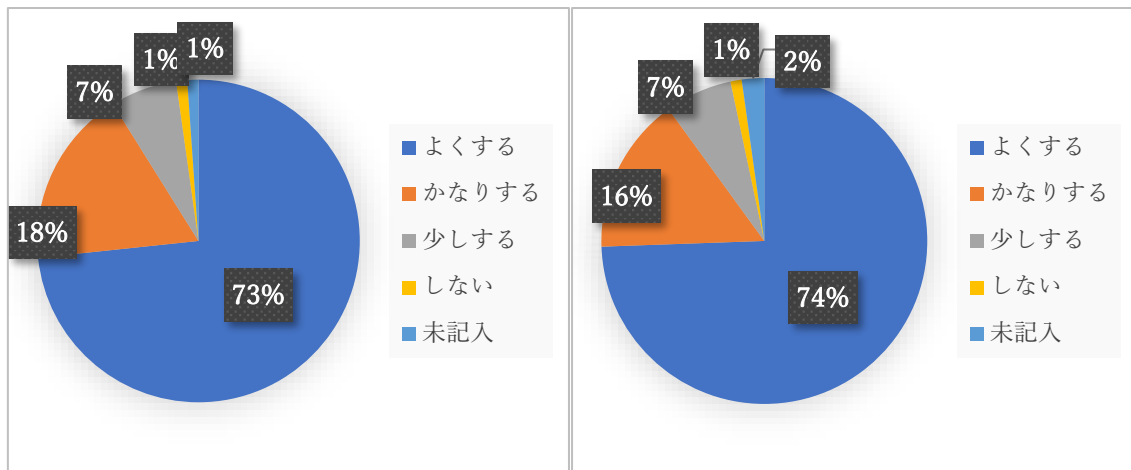


図1 〈送り〉挨拶

図2 〈迎え〉挨拶

【体調確認】

次に、体調確認について報告する。保護者が就労等のため、保育所等で集団生活をする子どもの生活で保育者、保護者ともに最も気にかける事項の一つとして【体調確認】があるだろう。アンケートの結果、「体調確認」を送り時には「よくする」が44人(49%)、「かなりする」が13人(14%)、「少しする」が24人(27%)、「しない」が8人(9%)であった。

迎え時には「よくする」が37人(41%)、「かなりする」が15人(17%)、「少しする」が27人(30%)、「しない」が9人(10%)であった。この結果から、子どもの送り、迎え共に子どもの「体調確認」を保育者が「よくする」と感じている保護者が多く、「かなりする」と合わせると5割を超える結果となった。一方で、「少しする」「しない」という場合も送り時には38%、迎え時には40%となっている。子ども自身が自分の体調について話すことができる年齢である場合、保育者は、特に体調の変化がなければ報告しないことが多いともあると考えられる。

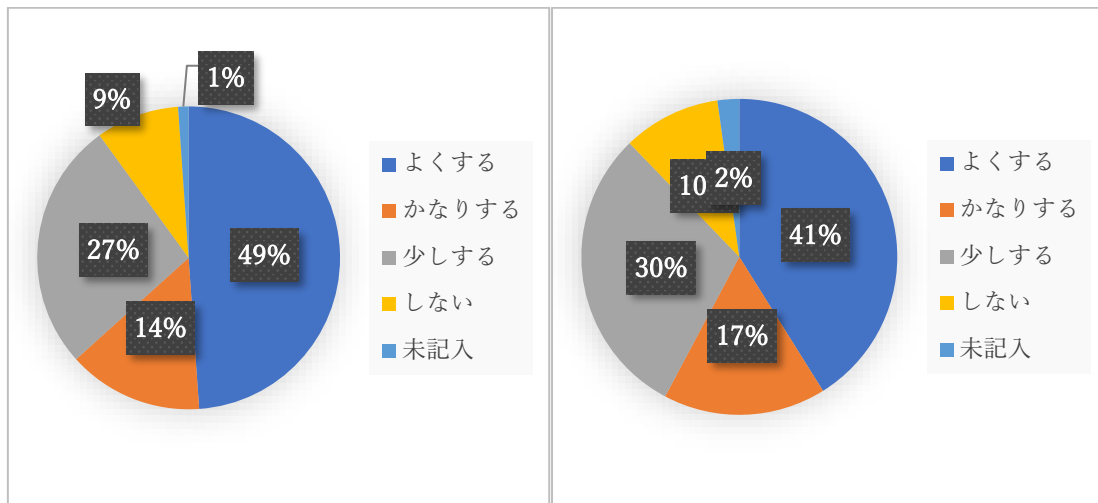


図3 〈送り〉体調確認

図4 〈迎え〉体調確認

【最近の子どもの様子などに関する会話】

最近の子どもの様子などに関する会話については、送り時に「よくする」が20人(22%)、「かなりする」が6人(7%)、「少しする」が42人(47%)、「しない」が21人(23%)であった。朝は通勤前で急いでいる保護者が多いため、短時間のコミュニケーションのなかで礼儀としての「挨拶」や保育所で生活するうえで必要な「体調の確認」などの方が優先されていることがうかがえる。

お迎え時には「よくする」が30人(33%)、「かなりする」が14人(16%)、「少しする」が35人(39%)、「しない」が9人(10%)という結果であった。これらの回答から、最近の子どもの様子などに関する会話は「挨拶」や「体調確認」などと比較し、送迎時共に「よくする」「かなりする」が半数に満たないという結果となった。一日の多くの時間を過ごす保育所等での子どもの様子についてもっと知りたいと感じている保護者は多く後述する自由記述の中でもそのような記載が多くあった。しかし、実際には朝は忙しく、お迎え時にも最近の子どもの様子などについての会話を「よくする」「かなりする」と感じている保護者は多くないことがわかる。相談を専門に受け付けている各種の相談機関とは異なり、保育の場の特性として、日々の保護者とのコミュニケーションや保育場面での子どもの姿を共有しながら、現在の保護者の悩み相談へと繋がる場面が多いだろう。そのため、保育者は意識して、保護者と日々の子どもの姿を共有する方法や時間、ツールについて具体的に考えていく必要があるだろう。

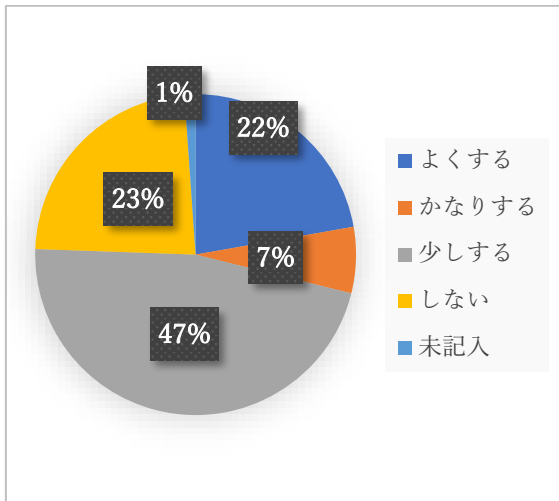


図5 〈送り〉

最近の子どもの様子などに関する会話

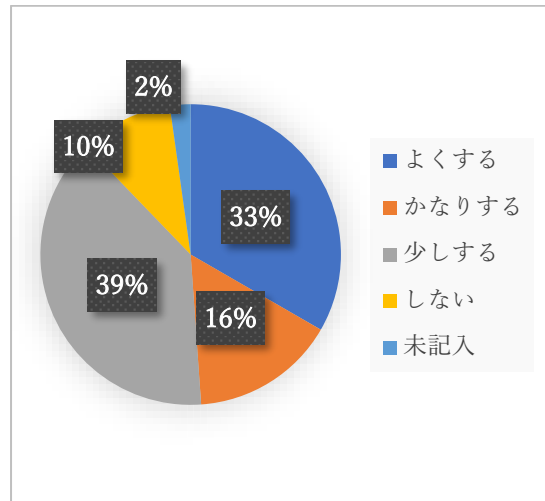


図6 〈迎え〉

最近の子どもの様子などに関する会話

【その他確認事項】

その他の確認事項については、送り時には「よくする」が 23 人 (26%)、「かなりする」が 7 人 (8%)、「少しする」が 45 人 (50%)、「しない」が 11 人 (12%)、迎え時には、「よくする」が 25 人 (28%)、「かなりする」が 9 人 (10%)、「少しする」が 42 人 (47%)、「しない」が 10 人 (11%) であった。

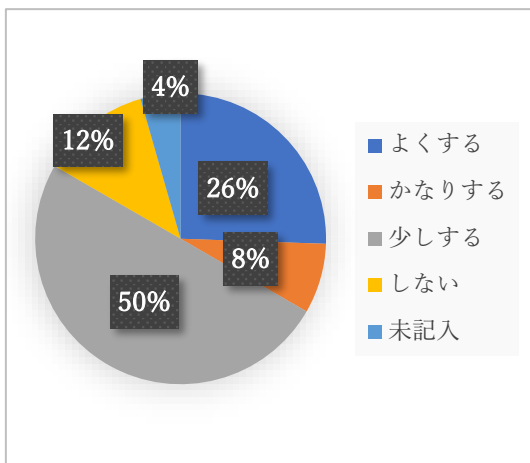


図7 〈送り〉 その他連絡事項

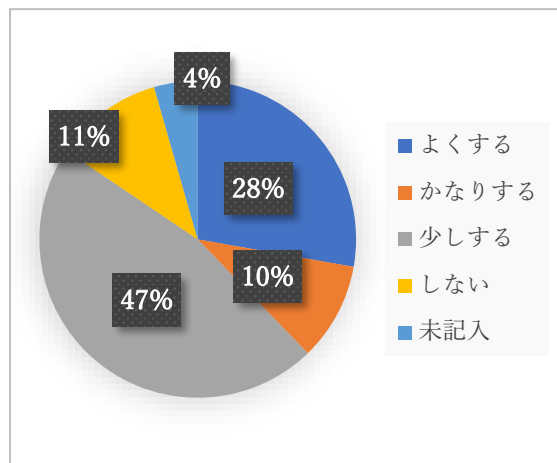


図8 〈迎え〉 その他連絡事項

4-4 日々のコミュニケーションについて—自由記述より—

保育者との日々のコミュニケーションについて気になっていることについて、自由記述で記載された具体的な内容について、これまでのアンケート項目と照らし合わせて検討していく。

【挨拶について】

「挨拶」について送り、迎えどちらの時間でも多くの保護者が「よくする」「かなりする」と感じており、挨拶をコミュニケーションの基本として、保護者・保育者共に積極的に行っている現状がわかる。「挨拶」についての自由記述では、「いつも笑顔で挨拶、対応してくれている」「若い先生が多く挨拶など元気にされる」「先生が子どもに対してパパに『いってらっしゃい』の挨拶をさせてくれるのはこちらも嬉しい」等、挨拶をされる、子どもにさせてくれる等、挨拶が笑顔、元気などポジティブな言葉と共に記載されている場合や挨拶によりポジティブな気持ちになっていることがうかがえる。

一方で「挨拶をされている感じがしない」「挨拶をしても返ってこない」「挨拶をされない方がいる」「挨拶が少ない」などコミュニケーションの基本である挨拶をしっかりとしていない場合や、保育の状況等や園の雰囲気等でされている感じがしないことがコミュニケーションの中で気になっているという記載があった。

表6 保育士とのコミュニケーションで気になる点/挨拶について

1	いつも笑顔で挨拶、対応してくれている。
2	若い先生が多く挨拶など元気にされる。
3	先生が子どもに対してパパに「いってらっしゃい」の挨拶をさせてくれるのはこちらも嬉しい。
4	送るときはホールなので挨拶されている感じがしない。出勤であう先生個人はよくされるのでホールでは受付係と子どもを見る係で別々にしてもよいのかと思う。
5	挨拶をしても返ってこない、こちらを見向きもしない方もいる。
6	先生の挨拶が少ない。
7	保育士の方で挨拶をされない方がいる

【体調確認について】

子どもの送り、迎え共に「よくする」「かなりする」と感じている保護者が5割を超えた「体調確認」については、表7のように記載された数は少ないが「子どもの体調に関して細かく伝えてくるのはいいが、預けられると迷惑のような態度をとらえるときが多くあり安心して預けられない」「(体調確認の際の)コミュニケーションがうまくいかず嫌な気持ちになることがある」というように、体調を確認する際のコミュニケーションの仕方により、保護者の気持ちがネガティブな気持ちになる場合もあるということがうかがえた。また、日々のコミュニケーションの中で「体調確認」をすることが主な主題となっており「子どもの様子」についての話がないことが気になっているという記述もあった。

表7 保育士とのコミュニケーションで気になる点／体調確認について

1	特定の保育士に限り、子どもの体調に関して細かく伝えてくるのはいいが、預けられると迷惑のような態度をとらえるときが多くあり安心して預けられない。働く人のための施設なので親への言葉の気遣いも考えてほしい。
2	送りの際、体調がすぐれない場合、そのまま連れて帰らされる時があり、コミュニケーションがうまくいかず嫌な気持ちになることがある。
3	担任は体調確認が主で、子どもの様子などについての話はあまりない。

【最近の子どもの様子などに関する会話について】

「挨拶」や「体調確認」などと比較し、送迎時共に「よくする」「かなりする」が半数に満たなかった。「最近の子どもの様子」については、表8のように「子どもの様子を伝えようとしてくれている」「(子どもの)話を聞く事で親はうれしい」等、子どもの話を聞くことで信頼関係が築かれていくと感じていることがうかがえる記述がある一方で、子どもの様子について「具体的に知りたい」「話はあまりない／されない」「頻度が少ない」等、保護者は一日の長い時間過ごしている保育所での子どもの様子について知りたいと思っており、保育者からの子どもの様子についての話をもっとあってもよいと感じている保護者が多いことがうかがえる。また、保育者間の差についての記述も複数あり、子どもの様子を話してくれる保育者とそうでない保育者がいることが気になっているという記述が見受けられた。

表8 保育士とのコミュニケーションで気になる点／子どもの様子・子どもの話等について

1	迎えの際、一番最後でじっくりと子どもの様子を伝えてもらった。時間があれば、保育士の側から子どもの様子を伝えようとしてくれている。
2	子どもの話を聞く事で先生とコミュニケーション、人間関係を築きたい。話を聞く事で親はうれしい。
3	引き渡し時「今日は変わりありませんでした」「今日も元気でした」しか言われないことがあること。子どもの様子が具体的に知りたい。
4	担任は体調確認が主で、子どもの様子などについての話はあまりない。
5	送迎時に子どもの様子を伝える頻度が少ない。
6	日々の子どもの話はあまりされない。個人面談では担任から話はあるが、預かり保育の話ではない。
7	子どもの様子を詳しく話してくれる保育士とそうでない保育士との差がある。
8	先生によってむらがある。園での子どもの様子を知りたいので、もっと積極的に保護者と関わってほしい。
9	保育者により子どもの様子を必ず伝えてくれる人もおり、ばらつきがある。

【その他確認事項について】

その他の確認事項については、掲示版での伝達についての記述が1件あり、その他は怪我

に関する記述であった。多くの子どもが過ごす保育の場では、遊んでいて転んだ場合等の怪我だけでなく、子ども同士のトラブルによるかみつきやひっかきなどへの対応や保護者への伝達も多い。対応や伝え方については、保護者により感じ方が様々であり、保育者が対応の難しさを感じる部分であることがうかがえる。

表9 保育士とのコミュニケーションで気になる点/その他確認事項について

1	担任によって違うが、けが等細かく説明してくれる先生と、子どもの話で確認する場合がある。その場合、信頼関係は築けない。
2	情報が足りない。けがをしたときお母さんに言うておいてでošimai。園行事の様子が紙で書いたものを張り出すだけで、個別に話をしたりすることはない。子どもに興味がないように思える。
3	かすり傷でもなぜ怪我をしたのか教えてほしい
4	子どものけが等は必ず教えてくれるが、いつもすみませんと謝られるので、そんなに恐縮しなくてよいと思う。
5	教室前の掲示板で翌日の持ち物や突然の変更を伝えられる。

【自由記述 その他】

最後に、日々のコミュニケーションについて、4-3の項目以外の、自由記述の内容である。表10、1・2のように「コミュニケーションがとりやすい」「園長先生が毎朝（中略）コミュニケーションをとっている」等、コミュニケーションを積極的にとっている記述がある一方、「忙しそうで話をするのが申し訳ない」「声をかけづらい」「担任とほとんど会えない」「担任と話すことがほとんどない」等、変則勤務という勤務体制の問題もあるが、担任の先生に会えない、会えてもコミュニケーションをとりづらいつ感じている保護者がいることがうかがえる(表10、3・4・5・6・7)。在園する保護者とのコミュニケーションが日々行われている一方で、延長保育をはじめとする長時間保育のため、保護者の送迎の時間によってはコミュニケーションの時間自体をとることができない場合もある。シフト制やバス登園といった保育の場の体制も含め、時間をいかに確保し、どのような方法でコミュニケーションをとっていくことが支援に繋がるのかという根本的な部分から検討する必要があるだろう。

更に、自由記述の中には、「保育者が自分の子育て観を押し付けてきて、今の時代と合っておらず戸惑う」「子どもがかわいく仲が良いことを親にアピールしすぎる」「必要以上に踏み込まれている気がする」「言葉遣いが悪い(なれなれしい)」(表10、8・9・10・11)等の保護者との適切な距離のとり方の問題や保護者の現状に関する理解不足に対する記述も見られた。保育所等に在園する保護者への支援が保育所保育指針に明記され10年たった現在、保護者を取り巻く状況も刻々と変化しているおり、保育所に入所してくる子どもの保護者も非常に多様になってきている。これらの記述から、幅広い保護者のニーズに対応するためにも、保護者を取り巻く現状への理解や保護者への支援についてのより専門的な知識や技術、学び直しが必要であることがうかがえる。

表 10 自由記述/その他

1	担任とコミュニケーションがとりやすい
2	園長先生が毎朝玄関に立ってコミュニケーションをとる。
3	忙しそうで話をするのが申し訳ない。
4	保育士さんは忙しそうで子ども達も見ているしいつもとかわりなければ声をかけづらい
5	送迎時担任とほとんど会えない。月1でもいいから19時までいてほしい。
6	バスでの登降園なので保育士と話すことがほとんどない。もっと園の様子は知りたい。
7	毎朝、7時15分に送りにいっているのですがその時だと先生がシフト制のため2週間に1回くらいしか担任の先生と会えない。会えば毎回積極的に話しかけてきてくれる。
8	保育者が自分の子育て観を押し付けてきて、今の時代と合っておらず戸惑う。今の母親の現状を理解しながら話をしてほしい。
9	パートや非正規職員にイライラすることがある。年配の非正規職員は、子どもがかわいく仲が良いことを親にアピールしすぎる。急いでいるときなどイライラする。
10	必要以上に踏み込まれているように感じる
11	言葉遣いが悪い(なれなれしい)
12	マニュアル通りなのは良いことであるが、臨機応変な姿勢も必要。

5. 考察とまとめ

以上のように保育所を利用している保護者へのアンケート調査から、保護者が保育士等とのコミュニケーションをどのように捉えているのかという現状を明らかにしてきた。特に今回は、保育所等での保育者と保護者のコミュニケーションの内容として想定される「挨拶」「体調確認」「最近の子どもの様子などに関する会話」「その他確認事項」の4項目に焦点をあてた。その結果、保護者は保育士等との送迎時のコミュニケーションとして「挨拶」や「体調確認」については「よくする」「かなりする」と感じているが、「最近の子どもの様子などに関する会話」については「少しする」と感じている場合が多く、自由記述からは保護者が子どもの様子をもっと知りたいと思っているということがうかがえた。一日のうち、多くの時間を過ごす保育の場での子どもの姿を保護者は知りたいと思っているが、保育者、保護者ともに忙しい送迎時には「体調確認」など、健康や安全に関するものが優先的になされていると言えるだろう。

保育所保育指針解説にも、保護者との信頼関係を築き、相互理解をしていくためには、まず「保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受けとめること、保護者の疑問や要望には対話を通して誠実に対応すること、保育士等と保護者の間で子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うことなどが必要」であることが明記されている。今回のアンケートでは、十分に結果に結びついてはい

ないが、自由記述の中には、「保護者の状況を理解してほしい」や「もっと子どもが何をし
て過ごしているのか知りたい」など、保護者として子どもの成長を側で見守ることができな
い時間の内容を知ることの保障や、保育者と一緒に子どもの成長を喜ぶということが求め
られており、そのような信頼関係を築くことが支援の第一歩であると考え。

保育者は、従来から保護者支援という視点ではなかったかもしれないがコミュニケーションの一環として、保護者への支援を行ってきた。在園する子どもの保護者への支援が公的
なガイドラインに位置づけられたのは、2008（平成 20）年の保育所保育指針の改訂であっ
た。保育所保育指針に保護者の支援が明記されてから、10 年たった現在も「保護者への支
援」という視点での方法論の確立や技術の習得に関しては、進んでいるとは言えない状況が
うかがえる。保護者の多様なニーズを把握し、保護者の支援に繋げていくために、送迎時の
受け入れ方法、人員配置、コミュニケーションの内容や方法、必要な技術の習得などを検討
していく必要があるだろう。

6. 今後の課題

本報告では、保育所保育指針の保育所における保護者支援の項目をもとに実際に保育所
で行われている保護者に対する支援について、アンケート調査を行ったものの一部である。
特に今回は、日々の送迎時のコミュニケーションについて保護者がどのように感じている
のかという点に焦点を当て報告した。今後は、分析方法の検討とともに、調査項目の精査、
拡充をすることで保育所等の在園児の保護者に対する支援についての一般的な援助方法を
導き出していきたい。

注・引用・参考文献

注1) 1.57 ショックとは 1989 年（前年）に合計特殊出生率が 1.57 を記録し、「丙午」とい
う特殊要因により過去に最低であった 1966 年の合計特殊出生率の 1.58 を下回ったこ
とへの衝撃をあらわし、1.57 ショックと言われた。

- 1) 厚生労働省(2008)『保育所保育指針解説』 フレーベル館, p 333
- 2) 松尾寛子(2015) 子育て支援を見越した保育所における保護者との連携方法について－
H 県における保育所の送迎方法についての調査とある市における送迎保育ステーショ
ン事業について－ 神戸常盤大学紀要 8, 17-27
- 3) 松井剛太, 松本博雄他(2018) 保育所における送迎時の子育て支援－ハッピー 7 カード
を使用した「親子関係」支援－ 香川大学教育実践総合研究 36, 15-20
- 4) 亀崎美沙子(2017) 保育環境における子育て支援機能の検討－室内の物的環境に着目し
て－ 十文字女子大学紀要 48 (2), 49-62